

あらいそにたつ白浪のよせくともひとりねがたき姫小松かな 春 夫
 ちら波のさそふとすれど紙屋川ゆるがて色もかわらなでしこ 式 臣
 秋の霜ふりと降夜もかしのみのひとりしをれぬ撫子のはな 美 綱
 おもひきやつるきの秋の霜とけてめくみの露のかゝるへしとハ 廣 道

紀女登美事

女登美大阪内久寶寺坊紙鋪布屋仁三郎之妹也甫十歲夜有強盜三人破戸而入母錯愕自後戸走就鄰家乞救仲兄一次郎匿於紙苞中賊露刃迫仁三郎却問以衣財所在仁三郎對曰余小厮也豈知衣財所在賊曰汝雖小厮豈有不知之理怒聲加之女急探所私蓄荷包中粒銀一二屬仁三郎曰阿兄以此謝盜公賊聞語中有阿兄稱也益怒益迫曰奴輩詐我太可惡也速告則已不則將屠殺也女右扶持少弟吉藏左牽賊裾謂曰盜公今夜阿兄死明日誰經紀我家者冀以吾身代之且諭且泣辭氣愿款賊大感悟竟舍而去既而賊皆就捕自首官府召女及家人問之悉如賊言尹大嘆賞賜乾菓一器覆以縞紗帕而慰副之標私褒也後官命特賜白金十枚褒之蓋出異數云實嘉永紀元七月十九日也

是日官以賊徇三鄉處刑路過女氏之門賊憮然嘆曰余剽掠人家無數而未嘗見如此家女兒也聞者感嘆云

論曰大阪之俗畏盜殊甚其或被難者以逃竄爲得謀骨肉不相顧鄰保不相救渠苟持劔戟輒以衣財全然附之是以兇徒雖非必驍勇不可敵者以鈍刀敝器相劫者往々有焉官家緝捕雖嚴兇害未息亦坐人々畏避怯懦耳若使人々相保護如此女耶則兇害或幾息矣是大有裨世教者也況僅過齟齬之弱女而資性義勇如此亦足以證秉彜之德乎

橋本惟孝

因ニ云此置女賞せられて後船場炭屋某といふ富家の養女に望まれて行けりされハ行末の榮も思ひやられていみじ

〔編者曰ク原本此ノ記事中半丁挿畫ノ豫定ニテ 兇徒少女が義烈を感ず ト題シアルモ構圖ナシ〕

○嘉永三年戊五月 九郎右井筒屋の抱飯焼女ゆうハ原浪花の産にして父を藤七といひしがゆう十有餘歳の頃既ニ身没母のぬひ弟藤七等と俱に細き煙を立居けるが幼稚より萬に稼ぎ母弟の手助けをなして誠心を盡しける然るに弟藤七不圖眼病を煩ひ漸に重りて終に盲目となり職業も出來がたしさなきだに貧しき上かく弟の難病にますノ其日を送りかね且ハ藥の價さへ煎じ詰たる困窮に母弟と談らひて井筒屋方へ赴き憂飯

燒の勤奉公をなし其給金にて母弟を養育し或ハ勤の寸暇にハ母を見舞て孝を盡し弟に慈愛を加へし深切の志賤しき勤の身といへども貴きも耻べき誠心恰も泥中の蓮といふべし此事 公の上聞に達し慈情を竭せし孝心奇特とありて御褒美を賜わりけるぞ有難き

因ニ云其後も益々孝心怠りなく且吾身病に臥しなバ又もや難義に及ぶべしとて近來より炭薪の商ひ店を出し病身なる兄を一處におきて商賣の掛引をなさしめ盲目の弟にハ炭團を製することを教へ今ハ母兄弟三個に商賣を仕にせさせ何時其身にさしつかへ出來たりとも憂苦にあわざる遠慮をめぐらしをき尙平生の養育ハ前にかわらず調送るとなん又此頃井筒屋ハ廢亡に及びしによりゆうハ別に住居をもとめ姉なる者と兩個くらしつ明石屋といへる方に通勤せりさて 公より戴きし御褒美の青銅を新なる箱を作りこれに納め箱の表に年月及び賜るところの縁故を記し常に上座に置いてこれを拜し奉るよし聞ゆ實に感ずべき事どもなり尙近きに亡父の年忌に當れば法支をいとなみて是を弔ひ形ばかりの石碑を建んと朝夕思ひ暮せりと語れるぞ殊勝なり

攝津名所圖會大成 卷之十三下 畢

挿繪并ジシク版 目次

岸姫松帝塚山—(10—11)	焔 魔 堂—(16)	津守家車之圖—(70—72)
住吉神社若水桶同盥之圖—(74)	長 町 裏—(118—119)	難 波 藍 畑—(132—133)
難 波 整 骨 家—(156—157)	田 圃 水 車—(164—165)	四ッ橋烟管鋪—(200—201)
谷風棍之助眞蹟—(206—207)	看々踊鳴物—(210—211)	寺 島—(226—227)
松之鼻蛭子祠—(228—229)	瀬戸物町地藏會—(276—277)	新町廓中惣圖—(286—287)
撞木橋筋違橋—(298—299)	野口庖刀の圖—(310—313)	蛸 松—(318—319)
在原業平像—(355)	中 之 島—(361)	山 崎 の 端—(362—363)
月 見 砦—(372)	西天満寺街—(384—387)	長柄川渡口—(410—411)
長柄鶴満寺絲櫻—(416—417)	鶴満寺の鐘銘—(419)	鶴満寺の鐘—(421)
東天満寺町—(436—441)	天 神 花—(454)	圓光大師傳遊女の圖—(472—473)
難 波 橋—(485—489)	安土街神輿屋—(524—525)	南御堂裏穴門—(534—535)
上難波宮夏祭神輿渡御—(542—545)	牡 蠣 船—(560—561)	心 齋 橋—(568—569)
心齋橋通書肆—(570—571)	御靈宮六齋夜店—(折込挿繪)	

昭和三年八月二十日印刷
昭和三年八月廿五日發行

(非賣品)

編纂校訂者 船越政一郎
大阪市西成區松原通二丁目四三

發行者 江崎政忠
大阪市北區宗是町一番地大阪ビルヂング内
浪速叢書刊行會代表理事

印刷者 長谷川泰三
大阪市東成區鶴橋天王寺町五七八五

印刷所 桃谷印刷株式會社
大阪市東成區鶴橋天王寺町五七八五
電話南 三三〇六二番
三七二二番

浪速叢書

不許	複製
----	----

第八

發行所 浪速叢書刊行會
大阪市北區宗是町一番地大阪ビルヂング内

電話土佐堀六六二二番
振替口座大阪七七三六三番

- 一 本叢書は、元和以降この浪速——我等が愛するこの大坂——に關する編著記録のうちから、過去の浪速文化を回顧せしめ、未來の浪速文化を生ましむべき、眞に永遠の價値あるもの——中には未刊行のものが大部分を占めてゐます——を收め、後の世に傳へたい希望の下に着手されたものです。
- 一 本叢書の題字は、帝室御物聖徳太子御筆『法華經義疏』の寫眞のうちから求め出したものです。我國に於ける文化工藝の祖におはすばかりか荒陵山四天王寺の創建者として我が浪速との因縁が頗る深い太子の御筆蹟を、我が叢書の題字とすることを得たのは、本書の誇りと考へてゐます。
- 一 本叢書は原本の挿畫を一枚も省略せず、力めて原本の面影を傳へたいと心がけてゐます。
- 一 本叢書の用紙は王子製紙株式會社の別漉紙で、成るべく讀者諸氏の眼の疲勞を軽減したい用意が籠つてゐます。
- 一 本叢書の組版印刷製本これらの技術は桃谷印刷株式會社が其の一切を擔任し、及ぶ限りの努力を惜しまないとの意氣です。
- 一 本叢書見返しの畫は 日本畫壇の異彩菅楯彦氏の筆。表紙の布は、我國織物界の偉材龍村平藏氏の意匠に成つたもので、現に我が讀書界に好評噴々たるものがござります。
- 一 本叢書刊行會の理事は伊藤秀雄、林安繁、堀越壽助、室谷鐵腸、小林利昌、江崎政忠、木間瀬策三、森下博、末吉一郎の諸氏。顧問は今井貫一、和田萬吉、幸田成友、内藤虎次郎、内田貢、黒板勝美、藤井乙男、新村出、關一の諸氏。相談役は石割松太郎、橋本耕之介、南木芳太郎、上松寅三、佐古慶三、三宅吉之助の諸氏です。（諸氏の姓名はいづれもいろは順に依る）

浪速叢書

(全拾六卷)

所收目錄

第一	攝陽奇觀	第九	大阪商業史資料
第二	攝陽奇觀	第十	大阪訪碑錄
第三	攝陽奇觀	第十一	大阪訪碑錄
第四	攝陽奇觀	第十二	地誌
第五	攝陽奇觀	第十三	地誌
第六	攝陽奇觀	第十四	風俗
第七	攝津名所圖會大成	第十五	演藝
第八	攝津名所圖會大成	第十六	索引



新橋

